

中高生泊まれ NIGHT

取組の背景・目的

小学生が帰宅する18時以降、閉館時間の20時まで中高生タイムとして体育室の優先利用の時間を設けていた。しかしながら、2時間という限られた時間であることや、日々忙しい中高生のことを考えて、夏休みや9月の連休に「中高生お泊りプログラム」と称して宿泊プログラムを行ってきた。「中高生お泊りプログラム」では、館に宿泊しながら中高生がやりたいこと、普段なかなかできない遊びなどを可能な限り実施している。また、遠出をせずに自宅近くで行うことで、途中からの参加や部分参加などにも対応ができていた。しかしながらコロナで外出プログラムや宿泊プログラムが制限されたため、宿泊をしない「中高生泊まれ NIGHT」という代替プログラムをここ3年実施している。

取組の概要

実施場所

- ・ 会館（児童高齢者交流プラザ）全館を利用している。

実施内容

- ・ 夕食づくり（コロナ前）、屋上での花火、全館を使用しての「逃走中」、大かくれんぼ大会ゲーム大会、ダーツ体験、チェキ撮影タイム

実施頻度

- ・ 中高生の参加のしやすい長期休みや連休に実施しているので、年に2～3回程度の実施。

職員体制

・ 中高生が本気で遊ぶことに、体力的についていけるということで、日常中高生と関わっている若いスタッフが男女それぞれ2～3名ずつで担当している。シフトを工夫したり、宿泊の場合は出張扱いで対応している。

事業の実施方法

・ 食事などの費用は参加者から実費徴収しているが、その他のプログラムに関しては、港区が推奨する「中高生居場所づくり」の予算を使って実施している。

工夫点・留意点

日中に実施すると、他の世代の事故やトラブルにもつながりやすく、ダイナミックに遊ぶことも難しいので、特別な時間設定や環境を整備をする。事前に館内掲示や広報紙での周知も行い、利用者の理解も得て実施。

毎年、小学生も見れる形で報告掲示をする。「中学生・高校生になったら参加できる」という特別感を高め、中高生になると参加できるという憧れをもってプログラムに参加してもらえるように長期的な仕掛けも取り入れている。

参加した児童に対しては、プログラム中に新たな交友関係を築けるよう職員やアルバイトスタッフも中に入り、交友を深める。

部分的な利用や初参加の児童なども継続した日常利用につながるよう、イベントの中に特別プログラム以外に日常の利用方法や遊びを紹介する時間や体験する時間も設定している。

取組の効果

- ・事後の中高生利用は確実に増えた。
- ・長時間、場合によって（コロナ前）は寝食を共にしているので、実施後は違う学校との仲間づくり、職員との関係づくりに効果大きい。それにより、その後の来館が心理的に気軽になっている。
- ・職員を介さなくても直接会話をしたり、中高生同志で line の交換などにもつながっている。
- ・いつもは時間や他者（小学生や乳幼児親子）がいることでの、様々な制約がある中での利用となっているが、可能な限りの自由度を上げることで、日ごと感じえない解放感の中での遊びにつながっている。
- ・職員との関係性が構築されることで、事後、抱えている課題や悩みが相談しやすくなっている。

課題・今後の展開

- ・コロナの状況や中高生たち自身の希望を伺いながら「中高生宿泊プログラム」に戻していければと考える。
- ・ただし、宿泊しないことでさらに参加しやすくなっていることもあるので、宿泊版と一日終結版の二本立てで、回数を増やしていきたい。

